

2023年11月17日

地域プロモーションアワード2023 決定！

大賞は埼玉県熊谷市【パンフレット】茨城県古河市【動画】

一般財団法人地域活性化センターでは、地域の魅力を国内外に発信する広報PR活動の一助とするために、地域プロモーション事業の推進を行っています。その一環として、優れたパンフレットや動画を表彰する「地域プロモーションアワード」を実施しています。

この度、「地域プロモーションアワード2023」の各賞が決定しましたので、下記のとおり発表いたします。
なお、大賞受賞団体の表彰式を2024年1月29日（月）に開催いたします。

記

1. 受賞作品

ふるさとパンフレット大賞（第11回） 応募数：82点 受賞作品数：7点

- | | |
|---|--------------------------------|
| ●大賞 埼玉県熊谷市
「KUMAGAYA NIKUJIRU UDON SPIRIT」 | ●楓千里賞 鹿児島県南九州市
「南九州市「旅の雑誌」」 |
| ●優秀賞 愛媛県宇和島市
「宇和島ブランドブック」 | ●マックン賞 福島県只見町
「只見線車窓ガイドブック」 |
| ●南伸坊賞 長崎県松浦市
「meets!まつら（vol18）」 | |
| ●パックン賞 岩手県九戸郡洋野町
「ひろのとつながるみなさまへ」 | |
| ●地域活性化センター賞 埼玉県寄居町
「YORII TOWN DIARY & ORIGINAL NOTE 2023」 | |

ふるさと動画大賞（第5回） 応募数：134点 受賞作品数：9点

- | | |
|--|--|
| ●大賞 茨城県古河市
「「こがくらす」ブランドムービー」 | |
| ●優秀賞2作品 新潟県
「NIIGATA Culture Tourism ニイガタ カルチャー ツーリズム Episode1- 新潟・佐渡エリア -」
長崎県松浦市
「アジフライの聖地松浦 プロモーション動画」 | |
| ●箭内道彦賞 岡山県吉備中央町
「吉備中央町PR動画#1（町長逮捕？編）」 | |
| ●秋吉久美子賞 長崎県
「CROSSING NAGASAKI ~交差する長崎~（ダイジェスト版）」 | |
| ●木川剛志賞 佐賀県唐津市
「佐賀県唐津市のこと、もっと知ってください。」 | |
| ●戸高良彦賞 愛媛県東温市
「東温ラブストーリー」 | |
| ●谷中修吾賞 三重県鳥羽市
「Fantastique Toba」 | |
| ●地域活性化センター賞 島根県出雲市
「出雲市消防本部PR動画—IZUMO FIRE—」 | |

お問い合わせ先
一般財団法人 地域活性化センター
情報・広報プロモーション課
担当：畠田 夕木 新井
TEL：03-5202-6137 E-mail：kouhou@jcrd.jp
URL：<https://www.jcrd.jp/publications/pamphlet/2023/>

第11回 ふるさとパンフレット大賞

審査結果

開催趣旨

地域活性化センターでは、パンフレットによる地域情報発信を支援するため「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさとパンフレット大賞」を開催し、全国各地の趣向を凝らしたパンフレットを募集、表彰している。

応募作品数

応募作品：82作品

受賞作品： 7作品

審査委員紹介



審査委員長

イラストレーター
南伸坊氏



審査委員

國學院大學
観光まちづくり学部
教授 楓千里氏



審査委員

お笑いコンビ
パックンマックン
パックン氏



審査委員

お笑いコンビ
パックンマックン
マックン氏



審査委員

一般財団法人
地域活性化センター
常務理事
川住昌光

受賞作品紹介



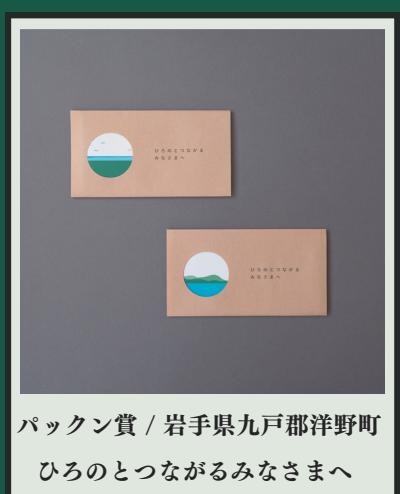
優秀賞／愛媛県宇和島市
宇和島ブランドブック



南伸坊賞／長崎県松浦市
meets!まつら (vol18)



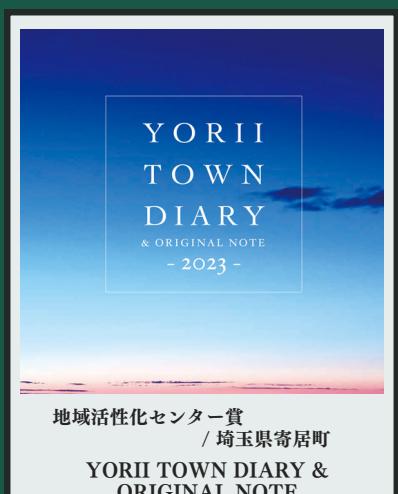
楓千里賞／鹿児島県南九州市
南九州市「旅の雑誌」



パックン賞／岩手県九戸郡洋野町
ひろのとつながるみなさまへ



マックン賞／福島県只見町
只見線車窓ガイドブック
(只見線全線運転再開記念Ver.)



地域活性化センター賞
／埼玉県寄居町
YORII TOWN DIARY &
ORIGINAL NOTE

大賞

埼玉県熊谷市

KUMAGAYA
NIKUJIRU UDON
SPIRIT



審査委員コメント

今回は形や素材、仕掛けなどの「見せ方」にもとてもこだわっている傾向が目立ちました。

今回一番目立っていたのが熊谷！

今回はうどんに焦点を合わせパンフレットの枠を超えた表現方法が魅力的だと思いました。

こんなに大きくしてどうするの？この時代劇ヒーローばいイラストは誰なの？黄色と緑のコントラストで字がよく見えないし、とぼやきつつ表紙を開かずにはいられない。ページを開いて読み進めていくと、うどん店の紹介が出てくる。

そこでようやく「うどん」のPRだったのかと気づく。ところが肝心のお店のうどん紹介だけ何とモノクロ。何で？でもうまそうだ。手に取らせて、読ませて、肉汁うどんが無性に食べたくなる。そんな作戦にまんまとまってしまう。熊谷は暑いだけではなかった。

大賞の「KUMAGAYA NIKUJIRU UDON SPIRIT」を手にした瞬間、両肩の裏返したお椀も凜々しい、プロポーション抜群の「キング・ウィート」のインパクトの強さに圧倒されました。大きな誌面を読み進めると「麦翁」のストーリーに引き込まれていきます。このパンフレットが出来上がった際、掲載されているうどん屋の皆さんがあなたが一番驚き、そして喜ばれたはずです。熊谷肉汁うどんの強烈なヒーローが現れ、これから応援して続けてくれるのでですから、ますます美味しいうどん作り邁進されることでしょう。

パンフレット大賞始まって以来の巨大版型や、「肉汁うどん」を、ヒーロー物のイラストレーションとストーリーで展開するという破天荒なアイデアで、満場一致で大賞に決定した。アイデアもさることながら、「日本一のうどん文化」をアピールする、パンフレットとしての機能もダンゼン、果たしている内容でイラストレーションやレイアウトも一級の完成度を持っていて、文句なしの受賞です。



受賞団体コメント

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

埼玉県熊谷市は、本州トップクラスの収穫量を誇る小麦処で、うどんは昔から身近な食べ物として家庭で食されており、うどん文化が浸透している地域です。

市内には数多くのうどん店があり、具沢山の汁について食べる肉汁うどんが多くの店舗で提供されています。そんな熊谷のうどん文化をPRするため、肉汁うどんを中心としたキャンペーンを企画し、本パンフレットを作成するとともにスタンプラリーを開催いたしました。

作成した「KUMAGAYA NIKUJIRU UDON SPIRIT」は、熊谷市観光協会職員が店舗を訪問取材し、食べた感想、お店の歴史などを記事にしたもので、店舗紹介にあたっては、熊谷市出身で麦栽培の普及促進に大きく貢献した、麦翁（ばくおう）こと権田愛三（ごんだいぞう）から着想を得たオリジナルキャラクター「キング・ウィート」が活躍するストーリー仕立てとなっています。

新聞サイズの大きな紙面にポップな表紙、モノクロ写真掲載など、これまでのグルメ紹介パンフレットにはなかった斬新かつインパクトのあるデザインとしました。

熊谷にお越しの際は、ぜひ、各店自慢の肉汁うどんを味わってみてください。



優秀賞

愛媛県宇和島市

宇和島ブランドブック



審査委員コメント

よけいな文字や説明は一切なし。

写真の中に写っている人々の表情や動き、穏やかな海の表情、印象的な景色、魅力的な食べ物、ほっこりとする瞬間それが宇和島の魅力を小気味よく伝えてくる。

嗜めば嗜むほど味わい深い「じゃこ天」のような作品。

それにしても、こんなにもたくさんの自然な笑顔は滅多に見られない。

表紙のご夫婦の笑い声が葱を刻む音と共に聞こえてくるのが、優秀賞の「宇和島」です。

7見開きで展開されるグラビアには、そっと隠れたようにキャプションが添えられています。

写真から宇和島の様々な表情を受け取って欲しいとの、制作者の意図がストレートに伝わるパンフレットに仕上がっています。

美しい写真と、大胆で果敢なレイアウトで、その大胆さに、手に取った人は一瞬、不安になるほどです。写真が大きくゼイタクに使われている。というより、ほとんど文字情報がないみたいに見える。しかしそく見れば、意想外の所に、ちゃんと文字は入っていて、それを読ませることに成功しています。

宇和島

UWAJIMA BRAND BOOK



受賞団体コメント

この度は素晴らしい賞をいただき誠にありがとうございます。

宇和島市ブランドブックの制作にあたっては、まちの魅力である「日常の豊かさ」が写真を通して伝わるものにすることを目指しました。美しい自然や独特の文化が織りなす風景から、だんだんと人々の生活が感じられる日常の景色へと移っていく構成により、豊かな土地で育まれる人や暮らしの魅力を知ってほしいという“うわじまブランド”的想いを表現しています。

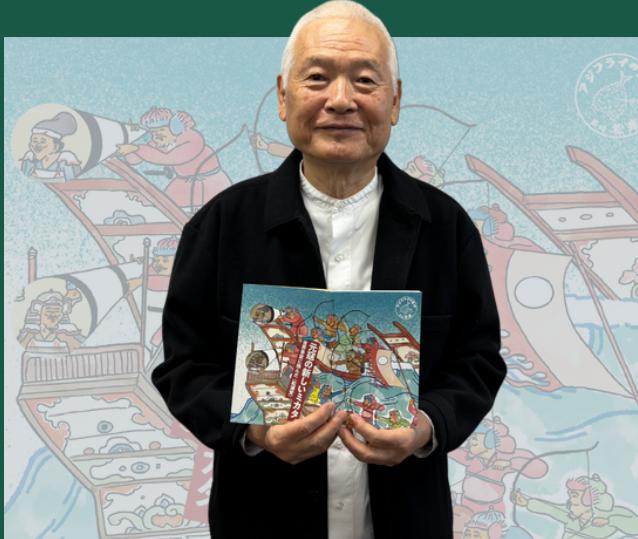
撮影はすべて市内で行い、地域の人にとってなじみ深い光景やそこに暮らす人々の飾らない表情を切り取りました。身近にある日常の良さは普段なかなか気がつきにくいものですが、何気ない写真の数々から、暮らしに息づく豊かさを感じていただけると嬉しく思います。

制作に関わってくださった多くの方々に感謝申し上げます。宇和島に暮らす人も、今まで宇和島のことを知らなかった人も、このブランドブックを通して魅力を発見していただければ幸いです。

南伸坊賞

長崎県松浦市

meets!まつら (vol18)



審査委員長コメント

アジフライの聖地・松浦は、今回はなんと「蒙古襲来」をテーマにしたパンフレットでした。「元寇の新しいミカタ。世界事変に挑んだ〈松浦党〉」というタイトルがついています。アジフライにしぼった過去入賞作品のパンフレットも、独自の目のつけ所を示してユニークでしたが、全く別のアプローチをしたのがすばらしい。イラストレーターをアジフライの時と同じNONCHELEEE 氏に依頼したのもすばらしい。ステキなパンフレットになりました。



受賞団体コメント

この度は大変光栄な賞をいただきありがとうございました。

「地元が地元を誇りに想うきっかけづくり」を編集方針に、小さな港町の“宝がし”からはじめ、創刊から14年。そんな港町に転機が訪れたのは2019年4月27日の『松浦アジフライの聖地宣言』でした。長崎県松浦市は昨今の“アジフライブームの火付け役”としてその名が知られるようになりました。

しかし「“アジフライの聖地”の次はどうする?!」と、半世紀もの間、まちに静かに横たわっていた「元寇の足跡」に光をあてるにしたのです。松浦市は元寇終焉の地。日本で唯一、元の沈没船が発見され、水中遺跡として初めて国史跡に指定されています。

アジフライと遺跡。対極ともいえるコンテンツの異質感をどうつなぐか。それには本誌コンセプトに「“リアル（史実）”に嘘のないドラマを描きながら“昔”と“今”を結ぶことで歴史に新しい視座を与えることで解決を試みました。付録にはアジフライ飲食店リストを残し、読後感に「アジフライ食べたあと、元寇、いいんじゃない？」といった相乗効果も狙いました。水中考古学の聖地。この町に「もう一つ“聖地”があった！」と知っていたら幸いです。





審査委員コメント

元旅の雑誌編集長として、表紙に記載されている「旅の雑誌」の四文字に目が釘付けになりました。そして、全国各地の旅にまつわるエピソードに包まれていた日々が、懐かしく甦りました。

「みな、みりょく」の総タイトルに添った8本特集記事の内4本は、「いただく」「見惚れる」「歩く」「祈る」と動詞のタイトルが付けられ、誌面が躍動的でまさに実体験気分にさせてくれます。他の3本のタイトルに使っている「ふところ」の頁も、ふところの奥を見せましょうとの編集者の心意気が伝わってきました。特集ごとに大きな写真と小さな写真、図版、地図の組み合わせにバラエティーがあり、読み手を飽きさせない、まさに雑誌編集の王道の構成そのものです。雑誌につきものの、編集後記があると一層素晴らしいかと思います。

受賞団体コメント

南九州市観光パンフレット「旅の雑誌」は、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により思うように旅をすることができない、そのような時世に初版を制作いたしました。

現地を訪れることが難しい状況下にあっても、パンフレットを手に取っていただいた人に直感的に理解していただきたいとの思いから、写真を中心に据えて当市の魅力を訴求する構成としました。

当市は、市町村単位での生産量日本一を誇る「知覧茶」をはじめ、「さつまいも」や「かわなべ牛」などの第一次産業を基幹産業としている町です。「旅の雑誌」では、観光情報に加え、これらの「食」の情報にもフォーカスし掛け合わせることで、手に取っていただいた多くの方に、当市ならではの楽しい旅マエの時間も過ごしていただきたいと考えています。

この度は、このような栄えある賞に選考していただき大変光栄に存じます。誠にありがとうございました。





審査委員コメント

このパンフレットを手に取る瞬間から探検が始まる。切り抜きの窓からのぞける次ページの一部でまず「なに、このかご？」や「え？きのこって？」と、疑問が思い浮かびながらページをめくると正解が見える。また、普通の帶かと思いきや、広げると裏に方言や特産品などの情報を見分け！この発見の旅をぜひ現地でも続けたくなる、パンフから感じとるこんな遊び心とゆとりはきっと洋野町の魅力そのものでしょう。皆さんもぜひ洋野町にあべ！（おいで！）

受賞団体コメント

ひろのをつむいだ最初の物語としての「ひろのの栄」がこのような栄えある賞を頂戴し、関係者一同、大変嬉しく思っております。誠にありがとうございます。

「ひろのの栄」は「本を読むように、ひろのの暮らしと人をもっと知る」をコンセプトとする岩手県洋野町のローカルメディアであり、(一社)fumotoと協力して実施する関係人口増加事業の名称でもあります。

この冊子はメディア創設直後に発行したもので、地域や年代の垣根を超えてこの町に愛着を持ってもらえるような、シンプルでどこか懐かしい表情のデザインにしました。そして、この冊子が「洋野町への道しるべ」「旅の栄」になることを目指し、風景や場所に紐づくストーリーを感じられるよう表現しました。また、ページには余白を持たせ、全ての情報を誌面で伝えるのではなく、より詳しく知りたい方向けにQRコードからWebメディアへと誘導しています。

発行から2年半が経ち、ついには7,000人以上の方に「ひろのとつながるみなさまへ」をお届けすることができました。そして、この冊子がきっかけになり、実際にひろのとのつながりが生まれていると、そう感じる機会も増えてきている今日この頃です。

※本冊子「ひろのとつながるみなさまへ」をお手元でご覧になりたい方には、お送りさせていただきますので、Webメディア「ひろのの栄(<https://hirono-shiori.jp/>)」に記載のある連絡先やSNS等でお問い合わせください。



審査委員コメント

マックン賞に選ばせていただいた只見線車窓ガイドブックは、車窓からの絶景スポットとその絶景が見える上り、下りの時間が掲載されていて、「これ、なくしては只見線には乗れない」という旅のお供として欠かせないパンフレットだなと思いました。また誰もが知る鉄道好きの俳優さんを起用することによって只見線の魅力が色々な角度で表現されているのも良いと思いました。

受賞団体コメント

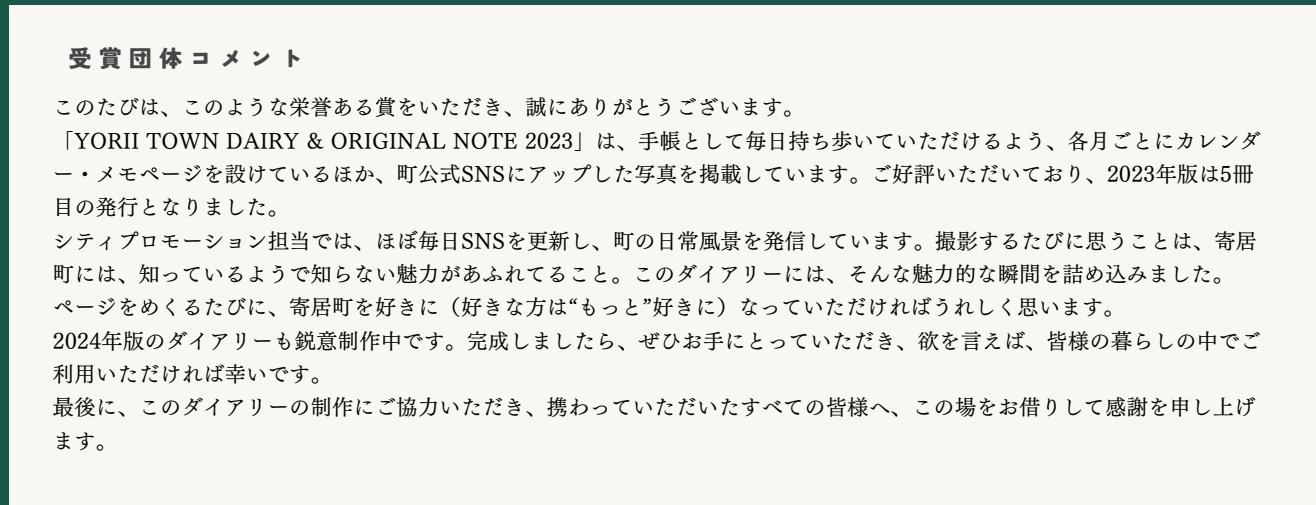
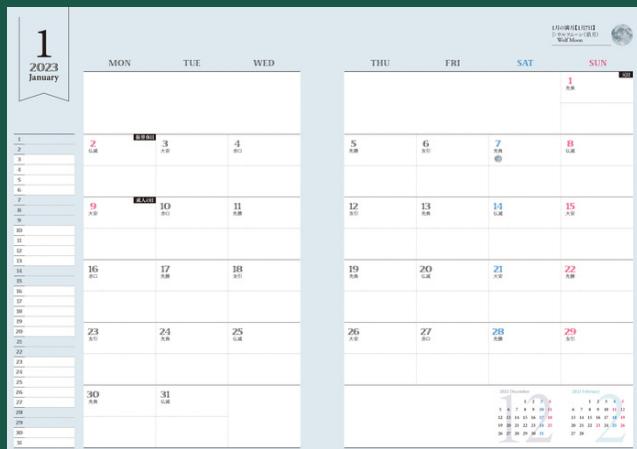
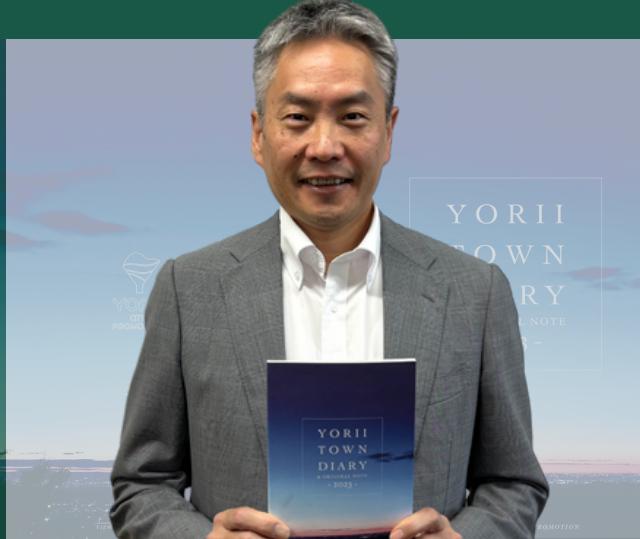
この度は、このような大変光栄な賞をいただき、本当にありがとうございました。

このガイドブックは、2011年新潟・福島豪雨災害で4つの橋梁が被害を受け、一部区間が代行バス運行になった「JR只見線」を復旧に結びつけたいとの思いで作成した冊子です。

ローカル線の横綱と称される「JR只見線」に多くの方に乗車していただけるよう、これまでの列車を紹介するガイドブックの発想を変え、乗ることにこだわり、列車からの車窓の眺めを1冊にまとめたものであります。冊子では、列車から見える車窓が、どの駅から、上り、下り方面で、それぞれ約何分後に、どちら側の窓から見えるかなど事細かに紹介しています。

第1弾は2017年に作成しましたが、2022年の約11年ぶりの全線運転再開を記念し、不通区間の車窓も収録した、”全線運転再開記念バージョン”として完成しました。俳優であり、呑み鉄として知られる「六角精児」さんのコラムや只見線の豆知識、沿線情報なども掲載し、まさに只見線を乗って楽しめるものとなっています。只見町のHPでは、無料公開もしていますので、只見線の旅のお供としてたくさんの皆様に素晴らしい只見線の旅を存分に楽しんでいただければ幸いです。





第5回 ふるさと動画大賞

審査結果

開催趣旨

地域活性化センターでは、ふるさとの魅力を発信する動画コンテンツによる地域情報発信を支援するために「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさと動画大賞」を開催し、全国各地の創意工夫に満ちた動画コンテンツを募集、表彰している。

応募作品数

応募作品：134作品 受賞作品：9作品

(大賞1作品、優秀賞2作品、各審査員賞6作品)

審査委員長

クリエイティブディレクター
箭内道彦氏

審査委員紹介



審査委員

女優
秋吉久美子氏



審査委員

和歌山大学
観光学部教授
木川剛志氏



審査委員

マガジンハウスクロスメディア事業局局長
戸高良彦氏



審査委員

BBT 大学 教授
一般社団法人 INSPIRE 代表理事
谷中修吾氏



審査委員

一般財団法人地域活性化センター
常務理事
川住昌光



大賞



茨城県古河市 「こがくらす」 ブランドムービー

優秀賞



新潟県 NIIGATA Culture Tourism
ニイガタ カルチャー ツーリズム Episode1
- 新潟・佐渡エリア -

優秀賞



長崎県松浦市
アジフライの聖地松浦 プロモーション動画

箭内道彦賞

令和四年十二月
某日

岡山県吉備中央町
吉備中央町PR動画#1（町長逮捕？編）

秋吉久美子賞



長崎県
CROSSING NAGASAKI～交差する長崎～
(ダイジェスト版)

木川剛志賞



佐賀県唐津市
「佐賀県唐津市のこと、もっと知って下さい。」

戸高良彦賞



愛媛県東温市
東温ラブストーリー

谷中修吾賞



三重県鳥羽市
Fantastique Toba

地域活性化センター賞



島根県出雲市
出雲市消防本部PR動画－IZUMO FIRE－

大賞

茨城県古河市

「こがくらす」ブランドムービー



審査委員長コメント

等身大で、生の声で、飾ってなくて、優しくて。とても素敵ナリレーメッセージです。あたたかな映像と、のびやかな音楽も。それぞれの「古河歴」っていうキャプションがとても効いてますね。

地域の魅力は、よそのどこにもない唯一無二のものじゃなくても別にかまわない。暮らす、ってそういうこと。インタビューの途中「あ、帰ってきた。おかえり～、おかえり」って言うお父さんとそれをそのまま使うディレクション、最高でした。

受賞団体コメント（茨城県古河市シティプロモーション課ブランド戦略室）

古くは万葉集に表記され、古河城の城下町、宿場町として栄えた由緒ある歴史を持ち、都心へ1時間の距離ながら歴史的建造物、多くのスポーツ施設や自然豊かな大型公園を有し、季節毎に数多くの祭りが開催されるまち、それが古河市です。

約14万人の市民は、定住意向や愛着度が高く古河市のさまざまな魅力を日常生活で感じながらも、他自治体に比べて突出したものではないため、発言や発信を躊躇してしまうという状況でした。市民それぞれの気持ちを顕在化させ、褒め言葉を溢れさせることにより「暮らす市民が褒めるまち」という大きな魅力を作り上げることが今回のブランド戦略「こがくらす」です。

本動画では市民の「気づき」を最優先させるため、コミュニケーションメッセージとして「こがくらすと」を設定し、市内の日常風景を多く取り入れることでの親近感、出演した市民が暮らしの良い面も不便な面も語る共感性、そして明るく繰り返し歌い込んだオリジナルの曲で、期待感を高める作りとしました。

今後この動画に触れた市民が、「こがくらすと」の言葉の先を自ら発見、発信、共有することで、一人ひとりの「こがくらす」な生活を作り上げていただくことを期待しています。

優秀賞

新潟県

NIIGATA Culture Tourism
ニイガタ カルチャー ツーリズム
Episode1
- 新潟・佐渡エリア -



審査委員コメント(講評から抜粋)

ナレーションを使わずに映像と音だけで地域のもつ魅力をここまで表現できるのかと思わせる力作です。

音声・文字はありませんが、その分万人に伝わる表情・風景の印象が強く残ります。

受賞団体コメント（新潟県観光文化スポーツ部文化課）

【豊かさを体感する旅へ。】

新潟県では、伝統芸能・食・文化財などその地域に根付く文化を体感する観光（文化観光）を「NIIGATA Culture Tourism（ニイガタ カルチャーツーリズム）」と名付け、文化観光を通じて“豊かさを体感する”、新たな旅の提案をしています。

令和4年度は新潟・佐渡エリアの文化観光に気づきを与えるため、同エリアの主要な文化観光を体験し巡る、ツーリズム・ドキュメンタリー映像を制作しました。

自然・芸能・史跡・食など新潟の文化資源のダイナミックな躍动感ある映像構成と、ツーリストが文化体験することで得られる「心豊かになる、その瞬間」の表情やときめき、リアリティーある人間の心の動きを、シネマティックに紡いでいきます。

ハイクオリティーな映像表現により、その場の空気感、心の表情を丁寧に描き、没入感ある映像作品に仕上げました。

また、今回「優秀賞」をいただいた新潟・佐渡エリアを含む県内5エリアの文化観光に関する動画を順次公開しています。今回の受賞をきっかけに、多くの方に動画をご覧いただき、実際に文化の魅力を体感するため、新潟県へお越しいただきたいと願っています。

★★ 優秀賞 ★★

長崎県松浦市

アジフライの聖地松浦
プロモーション動画



Aji Fry

アジフライ



松浦市はアジの漁獲量が日本一であり「アジフライの聖地」と呼ばれています

審査委員コメント(講評から抜粋)

今すぐにでもカラッと揚がったアジフライをサクッと食べたいと心底思わせてくれる罪作りな作品です。

効果音(アジフライを揚げる音、咀嚼音)の使い方がうまく、映像にインパクトがあります。ビッグバンドの音楽も合っています。

九州に行ったらアジフライを食べに松浦市に行きたくなる映像です。

受賞団体コメント（長崎県松浦市文化観光課）

この度は「地域プロモーションアワード2023ふるさと動画大賞」において「優秀賞」という栄えある賞をいただき、関係者一同大変喜んでおります。

松浦市はアジの水揚げ日本一を誇る「松浦魚市場」を有しております、鮮度抜群なアジが一年中手に入りますが、視点を変え刺身でも美味しいアジを“あえて”アジフライにして提供してみては？という市長の想いにより「アジフライの聖地 松浦」プロジェクトが開始され、2019年には聖地宣言を行い様々なシティプロモーションを推進してまいりました。

この動画は説明的な要素を最小限にし、軽快なBGMに載せて「アジフライ」をフックに万国共通の「食の欲求」に訴えかけ、本能的に「松浦市のアジフライを食べたい！」と思わせる動画を目指しました。

冒頭には生簀で生命力を感じさせるアジを登場させ、迫力のある魚市場での水「揚げ」、更にはアジフライを「揚げ」る市内の飲食店での調理の工程から食事のシーンまでをパッケージングしております。

今回の受賞をキッカケに多くの方に松浦市に来訪いただき「アジフライの聖地 松浦」を堪能いただければ“鰯”冥利につきますし、我々も「アジフライを日本中に！世界中に！Aji fry “FLY”！」の精神で魅力ある観光地域づくりに邁進していきます！

箭内道彦賞

岡山県吉備中央町

吉備中央町PR動画#1 (町長逮捕?編)

令和四年十二月
某日



審査コメント

この動画の素晴らしいのは、職員の方々が、自分たちで思い付いて、自分たちで撮って、自分たちで繋いでいること。達者であれば思いや魅力が伝わるわけではありません。これから地域クリエイティブのひとつのあり方を示しています。



受賞団体コメント(吉備中央町動画作成チーム(教育委員会事務局))

吉備中央町は、岡山県の中央に位置する、コメ作りを中心とした中山間地域の町です。過疎化が進み、人口減少に歯止めをかけるため、子育て支援や移住促進など様々な施策を他の自治体に負けない内容で行っていますが、目に見える効果はなかなか上がってこないというのが現状です。

これは、「どんなに良い政策を行っていても伝わっていないのではないか」と考え、「まずは「吉備中央町」という存在を多くの方に知ってもらいたい」という思いから、町の特色ある政策について、視点を変えた取り上げ方で物語として表現し、全4話の第1話として、「町長逮捕?」といった始まりで続く動画を製作しました。

制作にあたっては、職員有志で行い、公費ゼロで行いました。職員のスマホで撮影、編集を行い、町長をはじめとした職員を出演者としました。素人集団でしたが、みんなで「あ～だ、こ～だ」と話しながら、楽しく作成することができました。

ちょっと刺激的な内容であったため、動画アップ後は、皆さんから様々なご意見を頂戴し、正直なところ、ちょっと参ったこともありました。「これもすべて生みの苦しみ」と思い、あきらめずに作成を続けました。

秋吉久美子賞

長崎県

CROSSING NAGASAKI
～交差する長崎～
(ダイジェスト版)

CROSSING NAGASAKI



あたたかいアジアの空気を包まれたヨーロッパ風の建物や街並みに



私とあなたはいつか、会ったことがあるのかもしれない



審査コメント

圧倒的映像美・リズム感のある編集で見ていてとても気持ちが良かった。

音楽カメラワークも魅力的に演出を感じた。このチームに映画を創って欲しいと思った。

また、長崎の良さ（魅力）、歴史が深まり、このフィルムを元に長崎を旅したいと思った。

受賞団体コメント（長崎県文化振興・世界遺産課）

この度は、「秋吉久美子賞」という栄誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。関係者一同喜びに沸いているところです。

本映像は、一人の人物を通じて本県各地の歴史、文化、風習、食の風景をロードムービーのように紹介しています。「海外との多彩な交流の歴史」を背景とする、異文化情緒にあふれつともどこか懐かしい長崎の文化と景色、温かい人々を美しい映像で捉え、長崎の旅で得られる感動をお伝えしています。

主人公がかつて住んだ長崎は、多種多様な人、文化、宗教が交わりながら共存し、醸成されてきたまちです。なぜ国籍や文化の垣根を超えて交わり、共存できるのか。心豊かに生きるヒントを求めて長崎を主人公はふたたび訪れます。多様なあり方に寛容な長崎の人々との交流の中で自分を見つめ、自分から湧き出る力で再び動き出す様を印象的に描いています。映像をご覧になった方々に「長崎で歴史や文化を体験したい」と思っていただけることをぜひ期待しています。

木川剛志賞

佐賀県唐津市

「佐賀県唐津市のこと、
もっと知って下さい。」

佐賀県唐津市のこと
もっと知って下さい。

collaborated with 新日本プロレス

呼子のイカ
Yobuko Squid

曳山展示場
Hikiyama Exhibition Hall

審査コメント

「佐賀県唐津市のこと、もっと知って下さい。」圧倒的な強い思いがありました。一生懸命、いや涙ぐましいほどの“知ってほしい”というメッセージ。作中楽曲に登場する「唐津」はなんと37回！この直球が心に届きました。楽曲、そして映像が美しい、改めて映像の力を感じることができた作品でした。きっと全国の人々にも届く、素晴らしいものでした。とりあえず、今は早く唐津に行ってみたいです。



受賞団体コメント（佐賀県唐津市 経済部からつブランド・ふるさと寄附推進課）

新日本プロレスとの最強タッグで、佐賀県唐津市を「自治体知名度NO.1のチャンピオン」へ！都道府県魅力度ランキング最下位脱出への狼煙こそ、本作品の制作目的です。コロナによって「密」が許されなかつた時代。ならば、本作品を通じて、新时代の「密」を生み出すことはできないだろうか？たどり着いた答えは、唐津市を想う「心の密」とひとつの事を全員でやり切る「团结の密」でした。主軸に据えたのはオリジナルのダンスです。唐津市長をはじめ、市民の皆様も参戦。景勝地の数々を舞台に、棚橋弘至選手、獣神サンダー・ライガーさんらと共に作り上げました。

楽曲や振付けは全てプロによる書き下ろしで、自治体名を強く印象に残すため、全編にわたり「佐賀県唐津市」を連呼する一方、くどくなり過ぎないようエモーショナルなメロディーと歌声で仕上げました。聴き心地がよく誰でも口ずさめ、「一度聴くとクセになる」と話題に。ダンスの端々には「虹の松原」や「呼子のイカ」などを表現した振付けを取り入れ、子どもたちもすぐに踊れるよう工夫しました。

このたびは「木川剛志賞」を賜りまして、誠にありがとうございます。

唐津市×新日本プロレスコラボは2年目を迎え、本年は唐津の文化や観光地などを力強く発信しております。受賞の喜びを関係者一同で分かち合いながら、ネット・リアルともに「佐賀県唐津市」をもっと知っていただけるよう、まい進してまいります。

戸高良彦賞

愛媛県東温市

東温ラブストーリー



審査コメント



迷わず「東温ラブストーリー」を選びました。映像と音と言葉に80年代から現在までの様々なカルチャーがリミックスされている。ミーハー、良いとこ取り、しかしそれを超える「純粹な結束パワー」が漲っている。監督の渡部亮平さんも主演の清原梨央さんも、音楽のきみとバンドも、出演する町の方々全員が東温関係者！ 地元愛と町情報と青春の想い出、そして社会課題を、見事なバランスでブレンドしたクリエイティブの結晶です。次回の旅は、迷わず「TO-ON！ 松山から東へ30分！」。

受賞団体コメント（愛媛県東温市 地域活力創出課）

愛媛県内では住みやすいまちとして知られる東温市ですが、残念ながら県外での知名度が低いのが悩みの種でした。もっと多くの方に東温市を知ってもらいたいとの思いから東温市出身の若手アーティストが中心となってスペシャルムービー「東温ラブストーリー」を制作しました。監督は東温市出身の映画監督・脚本家の渡部亮平さん、楽曲制作は東温市出身の清原梨央さん所属の「きみとバンド」が担当しました。市役所職員を演じる主演の清原さんが「私恋人いないデートがしたい」と新たな出会いを求めて東温市のあらゆるスポットに繰り出し、東温市の魅力を再発見しながら始まるラブストーリー。

親しみやすいラップに乗せて東温市の魅力的なスポットが次々と写し出されるオール東温ロケのミュージックビデオは見て、聞いて、ハマること間違いなし！思わず一緒に踊りたくなるような振り付けにも注目です。

地元の子どもから大人までたくさんの方に出演いただいた「東温愛」溢れるミュージックビデオは公開わずか1ヶ月で8万回再生を突破。

これを見れば誰でも3分で東温市が好きになること間違いなしの「東温ラブストーリー」をぜひご覧ください。

谷中修吾賞

三重県鳥羽市

Fantastique Toba



審査コメント



ターゲットを絞り込んで価値を訴求する動画として特筆すべき作品です。インバウンド促進のための動画では、ターゲットとする国によって訴求の仕方が変わります。鳥羽市様の『Fantastique Toba』では、フランス人観光客という明確なターゲットを設定した上で、鳥羽のオーセンティックな自然や伝統文化を切り口とすることで、ニーズに対して刺さる価値の訴求を体現していました。視聴したターゲットが現場への自己投影感を持てるよう設計されている点も秀逸です。

受賞団体コメント（三重県鳥羽市観光商工課）

鳥羽市は、市全域が伊勢志摩国立公園内に位置し、人々の暮らしと海を中心とした自然が共生する海辺のまちです。主要産業は漁業と観光業で、漁業の中でも2000年以前から素潜りで水産物を獲る持続可能な漁法の「海女」が日本で最も多いことが特徴であり、海女文化の自然と向き合う暮らしや文化がまちの魅力です。

今回、インバウンド施策のメインターゲットとして、自然や奥深い歴史文化に興味を持つフランスを設定し、プロモーション動画を作成しました。

本市にはフランス人の国際交流員が所属していることから、国際交流員とともに動画の企画から始めました。動画コンセプトを「自然と人の共生」と設定し、動画タイトルを魅力的という意味のフランス語を採用し、「Fantastique Toba」としました。また、国際交流員自らがナレーターとナレーションを務め、言語はすべてフランス語に統一しています。

動画の各コンテンツは、オーセンティックな魅力を伝えることにこだわりました。漁村地域や海に関する歴史文化を伝える市内の博物館などを訪れ、海女をはじめとして地域の人々に会っていく内容となっています。

様々な時代の変化の中、本動画を通じて自然と人の関わり方を見直すきっかけとなり、世界中の持続可能な地域づくりにつながればと考えています。

地域活性化センター賞

島根県出雲市

出雲市消防本部PR動画
—IZUMO FIRE—



審査コメント

出雲市の作品は、単に消防本部の活動を紹介するのではなく、出雲大社をはじめ出雲市民の暮らしを絶対に守り抜くんだという消防隊員たちの強い覚悟と勇気が感じられる気合の入った一品です。私がもう少し若ければ出雲市消防本部への入隊を本気で考えるのですが…。

受賞団体コメント（島根県出雲市消防総務課）

神話のふるさと、出雲の象徴ともいえる出雲大社（いづもおおやしろ）。八百万の神々が集う旧暦の10月を出雲地方では神在月と呼び、太古のパワーを呼び覚ましてくれる存在であり出雲びとの心のよりどころです。その荘厳な空気感と、消防が最も重要な人命救助という崇高な目的を、組織力で達成する「力強さ」を地域の風景と歴史を重ね合わせ出雲市消防本部のPR動画として作成しました。

私達（消防）のしごとは昼夜問わず、24時間365日、住民の皆様の安全、安心を守ることです。さらに、地域住民の身近な存在として常に優しく寄り添う存在であることが必要であると考え、人材育成にも力を入れているところです。

この動画は職員が作成したものです。構図、時間など、「どうすれば多くの方々に見ていただけるのか？」をたえず協議しながら、3分弱にまとめました。

引き続き、「神話の地 出雲の守り人」の勇敢な姿をぜひご覧ください。